



仁木町ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界中で異常気象が頻発し、人間社会や自然環境に深刻な影響をもたらしています。気候変動の問題は、国際社会が団結して直ちにに取り組むべき重要な課題です。

2015年に採択されたパリ協定では、「世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求する」ことが長期目標として掲げられました。目標の達成には、2050年度までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする必要があります、このことを実現するため、我が国では、2020年10月の内閣総理大臣所信表明において、「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする（2050年カーボンニュートラル）、脱炭素社会の実現」を目指すことを宣言し、北海道でも、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を推進しています。

本町においては、「第6期仁木町総合計画」や「第3期仁木町創生人口ビジョン・総合戦略」の下、『果実とやすらぎの里・仁木町』を永遠のテーマに、今後も環境行政を着実に推進し、町、町民、事業者が協力し合い、環境への負荷が少ない資源循環型社会の実現、省エネルギー推進、再生可能エネルギーの活用など自然との共生を図っていきます。

この機会を捉え、「魅力ある、住みよい、個人の主体性と地域の共生・調和を大切にするまち」を未来の子どもたちに託すため、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すことをここに宣言します。

令和7年6月19日

北海道余市郡仁木町長 佐藤 聖一郎